

## 12. 大学として取り組んでいる連携事業

### 12.1 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

#### 実施団体名

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

：金沢大学、金沢医科大学、福井大学、富山大学、信州大学、石川県立看護大学

#### 概要

北信がんプロの実施内容として、1) 6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース（本科10、インテンシブ9）。2) テレビ会議システムを発展させた、北信オンコロジーセミナー、事例検討会。3) スタッフ研修として海外FD研修の実施。4) 他のがんプロ拠点や、人材育成プログラムとも積極的に連携し、国際シンポジウム、合同シンポジウムの実施。5) 市民啓発、がん教育活動の一環として患者会との連携や、北信4県の自治体、医師会、がん拠点病院と連携し、市民公開講座やシンポジウムの開催などである。本学は主に、大学院教育における、がん看護専門看護師の育成（本科生）と、インテンシブコースでの地域の医療従事者へのがんに関する知識・技術の普及である。特徴として、北陸、信州地域のがん関連病院をつないだテレビ会議システムを用いた事例検討会を実施し、がんに関心強い看護師の育成に努めることである。

#### 12.1.1 がんプロ企画委員会

委員長：牧野 智恵 教授（学長補佐）

委員：石垣教授（学長）、谷本准教授、金谷講師、松本講師、磯助教、今方助教、  
瀧澤助教、田淵助教

事務局：白山主幹兼係長、松本専門員、岡山事務員

活動内容：

##### 1. がん看護専門看護師（本科生）の育成

がんライフステージコースとして、がん専門看護師コースの大学院生を対象に今年度からスタートしたコースである。本学1名、福井大学2名の計3名の申し込みがあり、北信がんプロのe-learning科目とがん看護専門看護師の科目の履修を進めている。修業年限は2年であり、今年度は1名の修了者がいた。

##### 2. インテンシブコースによるがん看護の知識の普及実施・評価

以下の4つのコースへの募集および成績判定を行った。

###### ①「がん看護インテンシブAコース」

平成19年度から実施しているコースの一つで、北陸がんプロのがん看護本科生（大学院のがん看護専門看護師課程）を修了し、今後がん看護師専門看護師の受験をめざしている看護師、または更新予定のがん看護専門看護師を対象としたコースである。今年度は2名が履修した。

また、7月と10月にがん看護専門看護師と本コース申請者を対象に、がん看護専門看護

師の知識と技術のブラッシュアップと専門看護師の受験に向けた学習のための事例検討会を実施した。7月には北里大学病院の近藤まゆみ（がん看護専門看護師）にコメンテーターとしてお越しいただいた。7月では今年度がん看護CNSを受験予定の2名から、コンサルテーションやコーディネーションについての事例提供があり、コメンテーターや他のCNSの助言のもと、事例検討が行われました。参加者は22名であった。

10月には「CNSの高度実践のあり方について」～日々の悩みを語り合おう～ というテーマで意見交換会が行われた。まず北陸CNS会のメンバーから日本専門看護師協議会の専門看護師ラダーの紹介があり、その後、臨床でCNSが実際に遭遇した困難事例についてその対処について参加者で意見交換が行われた。参加者は11名であった。

## ②がんライフケアコース

看護師、薬剤師、医師、理学・作業療法士、ソーシャルワーカーを対象としたコースで、今年度は、受け入れ目標5名に対して、5名が申請した。

### 3. がんプロ企画の実施と評価

今年度は、3つの公開講座と、2種類の事例検討会を実施した。

#### 1) ライフステージ事例検討会およびCNS対象クローズド事例検討会企画・評価

##### ①ライフステージ事例検討会を実施した。

今年度は、6月から翌年3月までの期間に計8回の事例検討会を企画したが、3月はコロナ感染拡大予防の関係で中止とし、7回実施し計679名の看護師、医師、薬剤師、OT/PTが参加した。今年度は、医師が昨年比30名増加し、他職種での意見交換が活発になった。

##### ②CNSおよびCNS候補者を対象に、CNSクローズド事例検討会を2回実施した。7月27日には、北里大学病院のがん看護専門看護師の近藤まゆみさんをお呼びし、22名が参加した。10月6日には、11名が参加した。

#### 2) 「ゲノム医療の現状と薬物間相互作用を知り、現場に活かそう」公開講演会の実施・評価

10月6日（日）10:00～12:30にホテル金沢にて、「がんゲノム医療を理解し現場に活かそう」を開催した。第1部は、「がんゲノム医療の現状と看護上の倫理的課題」と題して東邦大学看護学部の村上好恵教授に講演していただき、第2部では、「抗がん剤のPK/PDと相互作用」と題して、東京大学医学部附属病院薬剤部の大野能之先生に講演いただいた。参加者は50名であった。

#### 3) 「臨床で行なうリンパ浮腫ケア」＜基礎編＞および＜アドバンス編＞の企画・評価

##### ①富山県立中央病院（がん看護専門看護師・日本医療リンパドレナージ協会認定セラピスト）の時山麻美さんを講師として招き、8月24日（土）に本学成人看護学実習室にて実施し、66名の看護師が参加した。演習では、一人ずつマッサージでの圧の加減について時山講師から指導していただいたこともあり、自由記載において、「今回の学びをスタッフにも伝達していきたい」という意見や、「マッサージの圧が軽くて驚いた。実際に足が軽くなるのを実感した」など、演習での成果が表れていた。

##### ②基礎編の2か月後、10月26日（土）に、時山麻美さんと山野洋子さん（福井県済生会病院・日本医療リンパドレナージ協会認定上級セラピスト）を招き、これまでの基礎編に参加した人の中から17名が参加した。基礎編に引き続き、より実践に活かせる内容の支援を

した。

4) FD・SD講演会の企画・評価

令和2年3月22日(日)にホテル金沢にて、北陸CNSの会、かほく市との共催、北國新聞後援にて、「がんになっても自分らしい人生を過ごすために ～今から家族と人生か意義(ACP)を～」と題した市民公開講座の開催を予定していたが、コロナ感染拡大予防のため次年度9月に延期となった。

外部報告

2019年度事業報告書

外部資金

研究拠点形成費等補助金（先進的医療イノベーション人材養成事業）連携大学の負担金  
4,300千円